

保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人どんぐり福祉会
施設名	小規模保育園どんぐりのおうち
報告者（役職）	清兼 礼子（園長）
住所・連絡先	大阪府東大阪市中小阪 5-6-6
	☎06-6723-1300 E-mail ouchi@donguri.ed.jp

○タイトル（保育計画）

“おはなし広場 きょうも あつまれ！”
（木の香漂う絵本コーナーは、いつでもおはなし広場になります）

○主な助成備品

絵本 417 冊 木製傾斜書架 2 台 木製絵本立て 1 台

1. 保育計画策定の目的

発達にそった質の良い絵本を、木の香漂うおちついた空間で、子ども達が自由に触れたり見たり大人に読んでもらったりして、絵本の楽しさや大切さを自然に身に付けていく。その中で子ども同士や保護者同士、保育士と一緒に人との楽しいつながりを経験していく。

2. 具体的な実施内容

「おはなし広場 きょうもあつまれ！」（2017 年 1 月スタート）

【内容】・【お約束】を次のように決め毎月開催した。

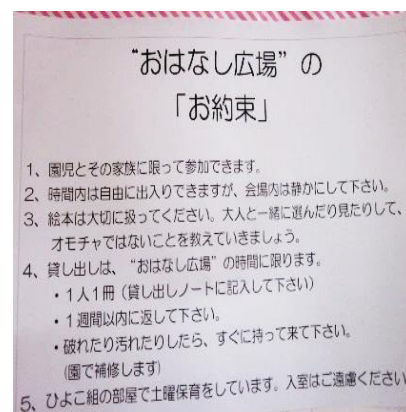
【内容】

- 月に 1 度（土曜日 4 時半～6 時）開催し、自由に絵本を見たり、借りたりできる場とする。
- 入園児とその家族（父母、兄弟姉妹、祖父母）が参加できる。必ず大人と一緒に参加してもらう。
- 保育士の読み聞かせの時間がある。
- 大人や友だちと一緒に楽しんだり、ひとりでじっくり見たり、お話を聞いたり、いろいろな楽しみ方ができる。



【お約束】（会場内に掲示）

- 1、園児とその家族に限って参加できます。
- 2、時間内は自由に出入りできますが、
会場内は静かにして下さい。
- 3、絵本は大切に扱ってください。
大人と一緒に選んだり見たりして、
オモチャではないことを教えていきましょう。
- 4、貸し出しは、“おはなし広場”の時間に限ります。
 - ・ 1人1冊（貸し出しノートに記入して下さい）
 - ・ 1週間以内に返して下さい。
 - ・ 破れたり汚れたりしたら、すぐに持って来て下さい。（園で補修します）
- 5、0歳児の部屋で土曜保育をしています。入室はご遠慮ください。



【特別イベント】11月は保護者会と共催で、規模を広げたイベントを行った。

11月18日「おはなし広場で交流会」]開催（9時30分～11時）

3. その成果と評価

回数	日付	保護者数	子ども数	特徴
1	1/14	6	6	初めて行うおはなし広場を楽しみにして参加してくれた。
2	2/25	4	4	雰囲気慣れないせいかすぐ飽きてしまう。
3	3/11	3	6	保育士の手遊びをいつもと違う物にしたり、読み聞かせの本を多くしたり、飽きないように工夫し、最後まで楽しめた。
4	4/22	2	2	新年度になり入園児が出そろわず、参加人数が減る。
5	5/50	2	3	新2才児の双子の女児が初参加。母もホッとした様子。
6	6/24	4	6	1才児の親子が初参加。初めての経験で新鮮だったよう。
7	7/29	3	5	子ども達が自由に絵本に触れられる事をととても楽しんでいる。
8	8/26	5	7	土曜保育で早くお迎えに来られた保護者も一緒に参加。
9	9/16	4	5	台風が近づいている。念のため早く終わる。
10	10/28	2	3	大雨でも楽しみにして来てくれる。
11	11/18	16	18	「おはなし広場で交流会」ほぼ全園児が参加。
12	12/20	5	6	知っている本が増え、好きな本を楽しみに見る。
13	1/20	2	3	借りて帰る絵本を自分で選び、満足して笑顔で帰っていく。
14	2/24	4	5	慣れた手つきで好きな絵本を取り出し、何冊も何冊も納得するまで保護者や保育士に読んでもらっている。
計		62	79	

月例「おはなし広場」の様子



- *これまでの参加数は保護者 62 人、子ども 79 人。家族数としては 58 組となる。
- *0, 1 才児の参加は少ないが、2 才児になると子どもから「行きたい」とせがんだり、子どもが絵本を楽しんでいることが保護者に伝わりやすかったり、大きくなって出掛けやすくなったりするので、2 歳児の参加が多かった。毎回楽しみに来ていた。
- *貸し出しは、毎回全員が利用し、家庭に絵本文化を持ち込んでもらえた。
- *子ども達にとっては、自由に何冊もの本に触れ、次々に出しては父母や保育士に甘えながら膝に座って読んでもらえる、幸せな時間・空間になっている。
その事が子ども達の心の財産になるものと思う。
- *保育の中でも、沢山の絵本を活用でき、0 才児でも、朝の会が始まると絵本を指さして喜んで集まるようになった。1 才児は、絵本に出てくる言葉をまね、登場者になったつもりで身振りを楽しんだ。2 才児は少し長いお話も静かに聞き、「今度は××が出てくるよ～」と、話の展開を友だちと予測してワクワクしていた。
- *保育園が「おはなし広場」を提供することで、子ども達にとって絵本がとても大切な物だと知らせ続けることが出来た。



11 月 18 日
「おはなし広場で交流会」の様子



＊おはなし広場を保護者会と共催のイベントにする事で、参加したことの無い保護者にもあらためて知ってもらう事ができ、絵本に触れてもらう事ができた。保育士は、普段保護者が見る機会のない、誕生会の出し物（ペープサート、アートバルーン、パネルシアターなど）を披露。保護者会役員も、ハンドタオルで簡単に作れる人形の作り方を覚えてみんなで手作りした。その後、全員で「おはなし広場」を楽しんだ。絵本を通じて保護者同士の会話も生まれ、園全体で楽しむことができ、とても好評だった。

4. 今後の課題と展望

- ＊園児数が少なく 1 年での入れ替わりが多いので、年に 1 度は全員対象の交流会をして、参加者を広げていく。
- ＊職員と話し合いながら必要な絵本を少しずつ増やしていく。
- ＊クラス懇談会などでも子どもの年齢に応じた絵本を紹介したり、読み聞かせをしたりして広く活用する。
- ＊地域の未就園児にも「おはなし広場」を知らせ、少しずつ対象を広げた幅広い取組みにしていく。
- ＊新入園児と保護者達、新しい職員達にも「おはなし広場」を理解してもらい、絵本の楽しさや大切さを一人でも多く伝えていく場として、ずっと続けてつないでいきたい。

以上